

## 『総合健康センター基本構想〔保健・介護・福祉・子育て機能〕』（案）に対する 意見募集〈パブリックコメント〉の結果について

令和8年2月10日から3月9日にかけて実施した『総合健康センター基本構想〔保健・介護・福祉・子育て機能〕』（案）に対する意見募集〈パブリックコメント〉に対し、貴重なご意見をいただきありがとうございました。

いただいたご意見とご意見に対する市の考え方を公表いたします。

なお、いただいたご意見につきましては、項目ごとに整理し、適宜要約して掲載しておりますので、予め御了承ください。

- 実施期間：令和8年2月10日（火）～令和8年3月9日（月）
- 資料閲覧場所：袋井市役所3階・情報公開コーナー、浅羽支所1階・市民ホール、総合健康センター（はーとふるプラザ袋井）1階・正面玄関付近、総合健康センター（はーとふるプラザ袋井）2階・健康未来課
- 意見提出方法：郵送、ファクス、電子メール、直接提出
- 意見提出件数：1人（17項目）

### ■ いただいたご意見と、ご意見に対する市の考え方

No.	ご意見・ご提言の概要	市の考え方（関連ページ・関連計画）
	<p>はじめに／序論</p> <p>老朽化した既存の総合健康センターの更新を契機として、保健・介護・福祉・子育て機能を再編し、新たな拠点を整備する方向性には基本的に賛同する。</p> <p>市民生活に関わる政策（地域公共交通、都市計画、福祉、健康づくり等）はそれぞれ独立したのではなく、相互に関係しながら成り立っている。</p> <p>本構想は、単なる施設整備計画ではなく、袋井市における生活支援インフラの将来像を示す計画であると感じた。</p>	<p>貴重なご意見をいただきありがとうございます。</p> <p>本構想は、築46年余りを経過した施設の老朽化等のハード面での課題解決と、多様化・複雑化する市民ニーズへの対応というソフト面での課題解決の両面を図るため、将来を見据えた新たな総合健康センターを整備するための基本的な方向性を定めています。</p> <p>市民生活に関わる政策はそれぞれ独立したのではなく相互に関係しあっていることから、総合健康センターを市民の健康・福祉を総合的に支え守る拠点と位置付け、本構想に基づき関係機関・関係団体と連携を図りながら、市民生活の安心を支えてまいります。</p> <p>（本編P10, 44）</p>

No.	ご意見・ご提言の概要	市の考え方（関連ページ・関連計画）
1	<p>総合健康センターを「施設整備」ではなく「地域の健康インフラ」として位置付けてはどうか</p> <p>本構想は単なる建物の更新にとどまらず、市民生活や健康・福祉の総合的な基盤であり、地域の健康インフラのグランドデザインを構想する契機である。</p> <p>総合健康センターが「専門職の施設」ととどまらず、「市民の生活を支えるインフラ」として、地域の生活の中で自然につながる拠点として機能していくことを期待する。</p>	<p>本構想では、基本理念として「市民の健康・福祉を総合的に支え・守る拠点」を掲げており、保健・介護・福祉・子育てに関わるサービスが緊密に連携し、複合的に提供する施設を目指しています。</p> <p>ご意見のとおり、本構想は単なる行政の施設整備に留まるものではありません。社会福祉協議会や地域包括支援センター、医療・介護機関、NPO法人、まちづくり協議会などの多様な主体と緊密に連携して重層的な支援ネットワークを構築していくことが「地域包括ケアシステム」の核であると考えており、地域社会全体で市民の生活と健康を支えるインフラとして機能するよう進めてまいります。</p> <p>（本編P44, 46）</p>
2	<p>相談支援機能のワンストップ化</p> <p>現代の福祉課題は複合的に絡み合うケースが増えており、「どの部署に相談すればよいか」分からないことが支援につながりにくくなる要因となる。</p> <p>「制度を越えて最初に受け止めるワンストップ総合相談拠点」として機能することが重要である。</p>	<p>本構想では、世代や属性を問わない「断らない相談対応」を行う総合相談窓口を設置し、保健・介護・福祉・子育てなど生活全般の相談に対応する包括的な相談・支援体制の充実を掲げています。</p> <p>市役所本庁舎にある福祉・介護保険の関連部門や袋井駅南東にあるこども若者家庭センターを新しい総合健康センターに集約することで、市民に分かりやすい相談窓口を設置し、相談者が施設間を移動する負担を軽減するなど、ワンストップでの相談・支援体制をさらに充実させてまいります。</p> <p>（本編P32, 36, 44）</p>
3	<p>部局横断の連携体制</p> <p>機能集約の効果は、単に施設を同一場所に配置するだけでは十分に発揮されない可能性がある。</p> <p>部局横断の会議体やケース共有、相談連携など運営面の設計も重要である。</p>	<p>本構想では、複雑化・複合化する相談事案の受付・調整、相談後の必要なサービスへの円滑な接続を目的に、関係部署間の連携強化による対応力向上を掲げています。</p> <p>現在も「相談支援担当者会議」等を設置し複数部署にまたがる相談を調整していますが、機能集約を機に、記録の電子化などICT技術の導入も視野に入れつつ、部局横断での情報共有やケース共有など、より効果的・効率的な運営体制の構築を検討してまいります。</p> <p>（本編P36, 41, 46、資料編P20）</p>

No.	ご意見・ご提言の概要	市の考え方（関連ページ・関連計画）
4	<p>子ども・若者支援との接続</p> <p>不登校や発達特性、ヤングケアラー、ひきこもりなどの課題が顕在化している。</p> <p>総合健康センターが母子保健や子育て支援、学校教育などと接続することで、「教育と福祉の連携拠点」として機能する可能性もあるのではないか。</p>	<p>本構想では、子ども施策を担当する部署を統合し、すべての妊産婦、子育て世帯、子ども・若者に対して包括的な支援を行う「こども若者家庭センター」を、新しい総合健康センターに集約することとしています。</p> <p>教育委員会や学校、幼稚園、保育所などの関係機関と緊密に連携し、ヤングケアラーやひきこもりなど制度の狭間にある課題にも対応できる、切れ目のない伴走型相談支援体制を整備してまいります。</p> <p>（本編P41, 47, 48）</p>
5	<p>社会的孤立と健康</p> <p>高齢者の孤立や子育て孤立などの問題は「社会的健康」の観点からも重要であり、総合健康センターが単なる保健施設ではなく「社会参加の入口」として機能する可能性もあるのではないか。</p>	<p>本構想では、居場所の創設や社会参加の促進など、社会的孤立を防ぐ取組も重要と認識しており、多様な主体などと連携した支援体制を構築し、住民同士で見守り・支え合う地域づくりも促進してまいります。</p> <p>（本編32, 36、資料編P66, 67）</p>
6	<p>食育・栄養・身体活動を結ぶ拠点機能について</p> <p>食生活の役割は極めて大きく、食育講座やキッチンスタジオ、地産地消を活かした食堂・カフェなどの機能を持つことで、市民にとっての動線ができやすく、健康づくりへの関心を高める入口になるのではないか。</p> <p>総合健康センターが「相談が必要な人だけが来る場所」ではなく、「食」や「健康的な暮らし」を入り口として、誰もが日常の延長で立ち寄れる施設になることを期待する。</p>	<p>本構想では、保健・予防機能において運動・栄養・休養などの健康教育を実施しており、必要諸室の検討においても調理室や栄養指導室などの整備を想定しています。</p> <p>ご提案いただいた「食」を入口とした健康づくりや、キッチンスタジオ、食堂・カフェなど、誰もが日常の延長で立ち寄りやすい機能・空間のあり方については、今後の基本計画や基本設計の中で、施設の規模や配置、民間活力の導入なども含めて検討する際の参考とさせていただきます。</p> <p>（本編P30, 46、資料編P38-42）</p>

No.	ご意見・ご提言の概要	市の考え方（関連ページ・関連計画）
7	<p>市民活動・ボランティア活動との接続</p> <p>地域活動やボランティア活動への参加は、社会的つながりを生み、孤立の予防や精神的健康の維持にもつながる。</p> <p>市民活動やボランティア活動ともゆるやかにつながる形で機能することで、健康づくりや地域共生社会の形成に寄与するのではないかな。</p>	<p>本構想では、社会福祉協議会や地域包括支援センター、NPO法人、まちづくり協議会、民生委員児童委員など多様な主体と緊密に連携して重層的な支援ネットワークを構築することを目指しています。</p> <p>また、施設内に社協ボランティアセンターや多目的ホールなどの整備を想定しており、市民活動・ボランティア活動との接続を図ってまいります。</p> <p>（本編P46, 50）</p>
8	<p>アウトリーチ機能と家事代行サービスの連携について</p> <p>センターに来てもらうことを前提とした支援だけでは、潜在的に支援を必要とする家庭を十分に把握することは難しいため、センター機能と並行して、地域の中に自然に入り込む形での「アウトリーチ」の視点も重要ではないかな。</p> <p>育児期の家庭を対象とした家事代行サービスを整備し、その拠点機能の一部を総合健康センターが担うという「生活支援型アウトリーチ」の発想も有効ではないかな。</p> <p>なお、家事代行サービスについては「袋井市地域福祉推進計画」パブリックコメントに際して意見提言をしており、令和8年2月袋井市議会定例会の一般質問でも取り上げられている。</p> <p>施策の実現に向けた検討が動き始める段階と考えるため、連携・連動を図り、実効性のある形を目指してはどうか。</p>	<p>本構想では、こども若者家庭センターにおいてすべての妊産婦、子育て世帯、子ども・若者に対して包括的な支援を行うこととしており、また、重層的支援体制整備事業の観点からも、必要な支援が届いていない人に対するアウトリーチ（支援を届ける取組）の重要性を認識しています。</p> <p>ご提案の「生活支援型アウトリーチ」や家事代行サービスとの連携についての具体的な取組については、本構想の枠組み（拠点としての機能）を踏まえつつ、「袋井市こどもしあわせプラン（袋井市こども計画）」に基づく事業計画の中で検討してまいります。</p> <p>（本編P41, 47、資料編P67、袋井市こどもしあわせプラン（袋井市こども計画）</p>

No.	ご意見・ご提言の概要	市の考え方（関連ページ・関連計画）
9	<p>公共施設マネジメントの観点</p> <p>人口減少社会において、公共施設の老朽化や維持管理費の増大などの課題がある中、保健・福祉・子育て機能や市民活動等の機能の集約（複合化・集約化）は、公共施設マネジメントの観点からも合理的な方向性であると感じる。</p>	<p>本構想では、現在の総合健康センターが築46年を経過し、施設・設備の老朽化が進んでいることから、建て替えを基本に検討していくことが望ましいと判断しています。</p> <p>施設の複合化・集約化により保有する公共施設のダウンサイジングを図るとともに、将来の財政負担も軽減できるよう効率的かつ効果的な施設整備・運営を目指してまいります。</p> <p>（本編P24, 25、資料編P72）</p>
10	<p>災害時の機能と地域レジリエンス</p> <p>災害時には要配慮者への支援拠点として重要な役割を担う可能性があるため、災害時の保健活動や福祉支援の拠点としての機能、施設や地域全体としての耐災害性（レジリエンス）という観点もあわせて検討されるとよい。</p>	<p>本構想では、必要諸室の検討において、災害ボランティアセンター本部等の利用も想定した多目的ルームなど整備を盛り込んでいます。</p> <p>今後の基本計画・基本設計において、災害時の保健・福祉の支援拠点としての機能についても十分に考慮してまいります。</p> <p>（本編P50, 56, 57、資料編P40）</p>
11	<p>交通とアクセス</p> <p>機能集約により遠くなる人が出る課題がある。特に高齢者にとっては「そこに行けること」が重要であり、地域公共交通計画など他計画との連携を意識した設計が望ましい。</p> <p>また、都市計画マスタープラン等にも織り込まれて連携・連動すべきものとする。</p>	<p>本構想では、建設場所の検討において、市民の利便性（本庁舎との行き来、交通アクセス）を評価項目として比較検証を行っています。</p> <p>現在の敷地外（市役所周辺）での建て替えを基本として検討を進めることとしており、公共交通機関（自主運行バスや路線バス）のアクセスについても考慮しています。</p> <p>施設整備にあたっては「そこに行けること」が重要であると認識しており、今後の基本計画等において、地域公共交通計画や都市計画マスタープラン等と整合を図り、誰もがアクセスしやすい利便性の向上に努めてまいります。</p> <p>（本編P56-58、地域公共交通計画、都市計画マスタープラン）</p>

No.	ご意見・ご提言の概要	市の考え方（関連ページ・関連計画）
12	<p>都市構造と総合健康センターの位置付けについて</p> <p>袋井駅から市役所周辺、教育会館、総合体育館へと続く南北の都市軸が存在している。</p> <p>都市軸の中で地域生活を支える拠点としてどのように位置付けるかという視点からも検討されるとよい。</p>	<p>本構想では、建設場所の検討において、「袋井市立地適正化計画」に定める都市づくりの基本方針実現に向けた柱の1つである『コンパクトに都市機能が集約した拠点の形成』を評価項目としており、本市の都市構造や都市計画マスタープラン等とも整合を図ってまいります。</p> <p>（本編P56-58、袋井市立地適正化計画、都市計画マスタープラン）</p>
13	<p>多文化共生</p> <p>外国人住民の増加を見据え、多言語相談なども視野に入れることで、より多様な市民が利用しやすい施設になると感じる。</p>	<p>本構想では、市民の健康・福祉を総合的に支え・守る拠点を基本理念とし、世代や属性を問わず困難を抱える方が安心して利用できる施設を目指しています。</p> <p>現在の総合相談窓口でも通訳を配置して対応しておりますが、今後も外国人住民を含めた多様な市民が利用しやすい相談体制の充実や、ユニバーサルデザインに配慮した施設づくりに努めてまいります。</p> <p>（本編P44、資料編P20）</p>
14	<p>評価指標</p> <p>施設整備は大きな投資を伴うため、相談につながった人数や健康づくり活動など、市民生活の変化を測る指標（KPI、アウトカム指標など）も検討されるとよい。</p>	<p>本構想では、既存の各機能の現状分析において、第2次袋井市健康づくり計画や第8期袋井市長寿しあわせ計画などの指標を用いて評価を行っています。</p> <p>新しい総合健康センターの整備効果を測るための具体的な評価指標については、関連する各分野の計画（健康づくり計画、長寿しあわせ計画、こども計画等）の実現と関係することから、関係部署と調整し適切な推進を図ってまいります。</p> <p>（本編P29, 33、資料編P16-25、袋井市健康づくり計画、袋井市長寿しあわせ計画）</p>

No.	ご意見・ご提言の概要	市の考え方（関連ページ・関連計画）
15	<p>地域共生社会の形成可能性と都市条件について</p> <p>袋井市は「地域共生モデル」が成立しやすい条件が比較的そろっている。</p> <p>総合健康センターを単なる行政施設として整備するのではなく、地域生活と支援をつなぐハブとして位置付けることで、「生活の中で自然に支援につながる地域共生モデル」を形成する可能性がある。</p>	<p>本構想では、多様な主体と地域住民によるネットワークを構築し、住民同士で見守り・支え合う地域づくりも促進することとしています。</p> <p>総合健康センターが単なる行政サービスを提供する施設にとどまらず、地域生活と支援をつなぐハブとして機能し、本市における地域包括ケアシステムの拠点となるよう進めてまいります。</p> <p>（本編P44, 46）</p>
	<p>おわりに／総論</p> <p>健康、福祉、子育てといった機能は市民の生活の中では切り分けられるものではない。</p> <p>総合健康センターが、行政サービスを提供する施設としてだけでなく、地域の支え合いや市民活動ともつながりながら、生活の課題を横断的に受け止める拠点として発展していくことを期待する。</p> <p>支援は「困っている人が窓口に来ること」を前提に設計されがちだが、本来は地域の生活の中で自然に気づき合い、支え合いながらつながっていく仕組みとして設計されることも重要。</p> <p>総合健康センターが、そうした「生活から始まる地域共生」の拠点として機能していくことを期待する。</p>	<p>本構想では、基本理念として「市民の健康・福祉を総合的に支え・守る拠点」を掲げており、総合健康センターが単なる行政の専門機関にとどまらないよう、保健・介護・福祉・子育てに関わるサービスを複合的に提供するとともに、多様な主体と連携して地域社会全体で市民を支える「地域共生社会」の実現を目指してまいります。</p> <p>（本編P44, 46）</p>